

学校現場からの声 ②

小 学 校 の 現 状

ホップ ステップ ジャンプ

Hop Step Jump (仮名)

●公立小学校 教諭

1. とにかく多忙な立ち上がり

今年度は、4月1日（月）に新年度がスタートし、4月4日（木）に入学式・始業式という超過密な日程であった。

図1のように、4月3日（水）の午前には入学式準備があり、実質3日間で各種会議、打ち合わせ、子どもの個別対応など、様々な準備を進める必要があり、教職員への大きな負担となった。

特に、新任の教員や転勤してきたばかりの教職員にとっては、新しい学校の何もかもがわからないなか、各種会議や打ち合わせ等に時間を取られ、

図1 令和6年度 4月当初の計画

	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)
	8:30出勤 担任発表 部会伝達式10:30 職員室整理 教科書仕分け（全席で） 第1回職員会議 学級・学年事務	アレルギー対応研修会 交流学級打ち合せ 児童引継ぎ 学年会計について（事務部） 校務分掌引き継ぎ 第2回職員会議 学級・学年事務	入学式準備 学年会 学級・学年事務	入学式 職員発表・動画撮影 第3回職員会議 学級・学年事務	通学団会 3時間授業 一斉下校11:50 下校指導 タレット移動？
8:30	転入者挨拶、担任発表等 職員室整理	機打ち	6年児童登校 8:50	7:30勤務開始	3時間授業 通学団会 一斉下校11:50
8:45	ロビー前移動	アレルギー対応研修会	入学式準備9:00～	入学式・学活 2～6年下校11:25	
9:00	印刷室学年連絡	交流学級打ち合せ			
9:15	児童用教科書仕分け	児童引継ぎ			
9:30		学年会計について（事務部）			
9:45		校務分掌引き継ぎ	6年下校 10:40		
10:00			機打ち	1年 保護者と下校 11:50	
10:15	教師用教科書配布書類 交換		学級・学年事務		
10:30	学級・学年事務等				
10:45					
11:00					
11:15					
11:30	昼食 弁当（実費）	昼食 外食可	昼食 外食可	後片付け	下校指導
11:45				昼食 弁当（実費）	
12:00					
12:15					
12:30	第1回職員会議	第2回職員会議	学年会 学級・学年事務等	第3回職員会議	機打ち
12:45					昼食
13:00					学年会 教員整備等
13:15					
13:30	学年会 学級・学年事務等	学年会 学級・学年事務 児童引き継ぎ 等	15:00 なかよし新1 年2名 顔合わせ会	学年会 学級・学年事務等	
13:45					
14:00					
14:15					
14:30	16:00再任用・転任 者 学校巡回				
14:45					
15:00					
15:15					
15:30					
15:45					
16:00					
16:15					
16:30					

さらに負担が大きかったと感じている。

在校等時間の結果をみると、約70%の教職員が45時間を超えており、80時間を超える教職員も約10%いた。中には、100時間を超える職員も複数いた。

4月4日（木）に入学式・始業式を行い、5日（金）は午前授業で一斉下校であったが、登下校の通学団の確認を行うため、担当の教員は、教員の配置の作成や通学団会のすすめかたの説明資料の作成などの準備に追われている。

また、週明けから給食が始まるため、担任の教員は土日を使ってその準備を行ったり、翌週からの授業の準備などを行ったりしていた。特に土曜日は、平日かと思うくらい多くの教職員が朝から出勤し、夕方まで働いていた。

教職員に立ち上がりの様子について話を聞いてみると、「入学式までの準備期間が短すぎて、在校時間が増えてしまう」、「しっかりと準備をして始業式を迎えたいが、時間がなさ過ぎて準備がしきれない」、「入学式・始業式までの時間が1週間程度あれば余裕をもって準備ができるのに…」といった声が聞かれた。

2. とにかく教員が足りない①

小学校には、予想外の行動をする子どもたちも少なくない。そのたびに応援を求めるインターホンが鳴るが、対応できる教員が職員室にいない状況も多く、事務職員が教室まで走ることも少なくない。突発事案にも対応できるだけの余裕があるのが本来あるべき姿であるが、とにかく人的余裕がない現状がある。

個別の支援を要する子どもの数も増えているが、常駐して対応にあたっただけのスタッフの数も充実していない。そのため、時間帯によっては

教頭が別室対応にあたっており、職員室の人員が充分ではないことから、危機管理体制がうまく構築できない場面もある。

先日、給食後に子どもが食物アレルギーでアナフィラキシーショックを起こす事案があった。重篤な状況であり、ドクターヘリを要請するほど緊迫した状況であった。

その際も職員室に十分な人員がおらず、119番通報、救急車の誘導、校庭で授業をしている児童の退避、保護者への連絡など、本来であれば役割分担をしてすすめるべきところ、情報を統括する管理職も職員室外に出ており、連携がうまく取れない場面もあった。そこで、事務職員も含め、いる人で走りまわって対応した。

教職員数は、法律的な部分でいけば欠員なしという状況でも、突発の事案が起こった場合や、予想外の子どもの動きへの対応など、人が足りないと思う場面ばかりである。子どもの安全確保という面からも、教職員に欠員がある状況での学校運営は非常に難しい部分がある。

3. とにかく教員が足りない②

5月末で、産休に入られた教員がいる。その方が最終日に「すみません。ご迷惑をおかけしてしまつて…」と謝られながら学校を去って行かれた。認められている正当な権利を行使しているだけなのに、こんなに肩身の狭い思いをされている状況に違和感しか覚えなかった。

代替教員はまだ見つかっていない状況であるが、休みに入られた先生に落ち度があるわけではない。しばらくは、教務主任と校務主任で入れるだけ授業に入り、それでも埋まらない授業は他の先生方に応援を求めることになる。このような状況にも柔軟に対応できるだけの人的な余裕が欲しい。

4. 業務の3分類とは いうものの…

「おたくの学校の〇〇通学団の子どもが道に広がって歩いている」、「登校中に1年生の〇〇という子が泣いていて、動かない」、「17時にしか迎えに行けないから、それまで学校で預かってほしい」といった連絡が寄せられる。学校が担うべき業務という線引きは、保護者にも社会にも、まだまだ認知されていないと感じる。

また、「通学団で〇〇くんに悪口を言われるから学校へ行きたくないと言っている」、「下校中にけんかになった」といった連絡が保護者から寄せられることも少なくない。登下校中のことだが、それが人間関係にも影響をしているとなると、「わかりました。学校で話を聞いて指導します。」と答えざるを得ない面もある。

登下校には地域の見守りの方々も協力をしてくださっている。教職員のなかには、文科省が示している業務の3分類について知らない人も少なく

ない。教職員の側の理解も深める必要があると思うが、保護者や社会への認知はまだまだ進んでいないように感じる。

5. 子どもたちのために…

現場の先生たちは、子どものために本当に頑張っている。そこまで頑張らなくてもいいのではないかと感じる場面も少なくないが、「子どものために…」、「子どもたちが喜ぶから…」そんな思いで日々奮闘している。「子どもたちのために…」という思いは教職員の誰もがやりがいのように感じている部分であると思うが、自身の健康や時間と引き換えに頑張らなければならない学校現場では、この先の学校教育の持続性は担保できない。すべての教職員が疲弊することなく、毎日笑顔で子どもたちの前に立てるような学校現場であってほしい。